

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名 : **CMエコボンドD 硬化剤**

製品種類 : 接着剤

使用上の制限 : 業務用

会社名 : 株式会社 ダイフレックス

住所 : 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル25F

電話 : 03-5381-1555

緊急連絡先電話 : 技術研究所 047-436-0811

SDS No.:111420892-1

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体:区分外

健康に対する有害性

急性毒性(経口):分類できない

急性毒性(経皮):分類できない

急性毒性(吸入):分類できない

皮膚腐食性及び刺激性:区分 1

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性:区分 1

呼吸器感作性:分類できない

皮膚感作性:区分 1

生殖細胞変異原性:分類できない

発がん性:分類できない

生殖毒性:分類できない

特定標的臓器毒性(単回ばく露):分類できない

特定標的臓器毒性(反復ばく露):分類できない

吸引性呼吸器有害性:分類できない

環境有害性

水生環境有害性(急性):分類できない

水生環境有害性(長期間):分類できない

オゾン層への有害性:分類できない



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ



注意書き

安全対策

取扱う前に全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わない。
保護手袋/保護眼鏡/保護衣/保護面などの個人用保護具を着用する。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入してはならない。
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざける。ー禁煙。
取扱い後は手洗い・うがいをする。
この製品を使用するときに、飲食または喫煙してはならない。
環境への放出を避ける。
容器は密閉しておく。

応急措置

気分が悪い時は、医師の診断/手当を受ける。
飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡する。口をすすぐ。無理に吐かせてはならない。
皮膚(または髪)に付着した場合:直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ皮膚を流水/シャワーで洗う。
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗う。コンタクトレンズを着用し容易に外せる場合は外し洗浄を続ける。眼の刺激が続く場合、医師の診断/手当を受ける。
暴露または暴露の懸念がある場合:医師の診断/手当を受ける。
汚染した衣類を再使用する場合は洗濯する。
漏出物を回収する。

保管

施錠して保管する。
直射日光、凍結を避け、換気の良い涼しい所で、容器を密閉し保管する。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄する。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 :混合物

化学名 :エマルジョン

成分名	含有量(%)	CAS No.
水	40-50	7732-18-5
特殊酢酸ビニル共重合体	40-50	非公開
トリエチレンテトラミン	<10	112-24-3
酢酸	<1	64-19-7
その他ポリアミン	<10	非公開

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師の手当て、診断を受けること。気分が悪い時は、医師の手当て診断を受けること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

汚染された衣類を脱ぐこと。皮膚を速やかに洗浄すること。直ちに多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。気分が悪い時は医師の診断、手当てを受けること。汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

目に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。気分が悪い時は医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。医師の手当て、診断を受けること。気分が悪い時は医師の診断、手当てを受けること。医師に容器またはその表示を示すか化学名を伝える。

最も重要な徴候及び症状

吸入すると、咳、咽頭痛、めまい、し眠、頭痛、吐き気、意識喪失を引き起こす恐れがある。

応急措置をする者の保護

咳、咽頭痛、めまい、し眠、頭痛、吐き気、皮膚の発赤。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

大量の水、粉末消火剤、二酸化炭素(炭酸ガス)

不適切な消火剤

データなし

特有の危険有害性

通常の条件では燃えないので火災の危険性は少ない。このもの自体に可燃性はないが、水分蒸発後の乾燥物は可燃性となる。

特有の消火方法

消火作業は風上から行う。火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

消火を行う者の保護

消火作業の際は適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。直ちに全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。関係者以外の立ち入りを禁止する。作業者は適切な保護具(8. 暴露防止及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。適切な保護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。風上に留まる。低地から離れる。密閉された場所に立ち入る前に換気する。

環境に対する注意事項

河川等に排出され、環境に影響を起こさないように注意する。環境中に放出してはならない。回収、中和:少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。

回収、中和 ならびに 封じ込め及び浄化の方法/機材

危険でなければ漏れを止める。漏洩物を取り扱うとき用いる全ての設備は接地する。蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。

二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入してはならない。

漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。

皮膚、粘膜又は着衣に触れたり、目に入らないように、保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用する。

取扱後は手・顔等は良く洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。

(火災・爆発の防止)

熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざける。ー禁煙。

局所排気、全体換気

屋外または換気のよい場所でのみ取り扱う。

注意事項

加熱してはならない。

安全取扱注意事項

取り扱う前にすべての安全注意を読み理解する。

過去にアレルギー症状を経験している人は取り扱わないこと。

接触回避:使用するまで密閉しておく。

配合禁忌等、安全な保管条件

適切な保管条件

施錠して保管する。

直射日光、凍結を避け、換気の良い涼しい所で、容器を密閉し保管する。

保証期限を過ぎた製品は速やかに廃棄する。

避けるべき保管条件

直射日光が当たる場所。屋根がない場所。高温になる場所、およびその隣接した場所。

開封状態での保管。

配合禁忌

消防法で定める混載禁止物質との同一保管は禁止。

セットで販売している化学物質以外との配合は禁止。

容器包装材料

他の容器に移し替えてはならない。

8. ばく露防止及び保護措置

職業ばく露限界値、生物学的限界値等の管理指標

管理濃度 :データなし

許容濃度

(酢酸) 日本産衛学会 10ppm; 25mg/m³

(酢酸) ACGIH TWA 10ppm、STEL 15ppm

設備対策

労働衛生法上の規制に従って、可能な場合には、換気設備などの施設上の技術的な対策を講じて作業者を保護しなければならない。取扱い場所の近くにシャワー手洗い洗眼設備等を設けその位置を表示する。

保護具

呼吸用保護具

必要に応じて、その有害性物質に対して適切な保護の出来る保護マスクを着用する。

手の保護具

保護手袋を着用する。

着用すべき手袋の材質:不浸透性の耐油性手袋(アクリロニトリル、ブチルゴム、ネオプレン系)

眼の保護具

保護眼鏡または防災面を着用する。

皮膚及び身体の保護具

保護衣および必要に応じて保護長靴、保護前掛けを着用する。取り扱う場合には、皮膚を直接曝さないような衣類を着けること。また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。

衛生対策

取扱い後は、良く手洗いうがいをする。

この製品を使用するときは、飲食又は喫煙をしてはならない。

汚染した衣類を再使用する場合は洗濯する。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状态 :液体
色 :白色
臭い :特有臭
pH :データなし
初留点/沸点 :ほぼ水と同じ
融点/凝固点 :データなし
分解温度 :データなし
引火点 :データなし
自然発火温度 :データなし
爆発特性 :引火又は爆発範囲 :データなし
蒸気圧 :データなし
比重/密度 :データなし
粘度 :100-300 mPa·s(25℃) 製造時
水に対する溶解度 :データなし

10. 安定性及び反応性

安定性

通常の手扱いにおいては安定である。

危険有害反応可能性

強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
鉄、アルミニウム、亜鉛などの金属を徐々に侵す。

避けるべき条件

高温での長時間加熱。炎、火花、高温体との接触。混合危険物質との混合。凍結、湿気、直射日光。

混触危険物質

強酸化剤(強酸類、過氧化物等)、酸性化合物。

危険有害な分解生成物

燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素、塩化水素などの有毒ガスを発生する。

11. 有害性情報

物理的、化学的及び毒性学的特性に関する症状

急性毒性

経口毒性成分データ

計算値の結果から区分外となったが、44%は毒性未知の成分であったので、分類できないとした。

経皮毒性成分データ

計算値の結果から区分外となったが、44%は毒性未知の成分であったので、分類できないとした。

局所効果

皮膚腐食性/刺激性成分データ

皮膚区分 1の成分合計 \geq 5% ; 皮膚刺激性区分 1

眼損傷性/刺激性成分データ

眼または皮膚区分 1の成分合計 \geq 3% ; 眼刺激性区分 1

感作性

皮膚感作性成分データ

製品中に区分1の毒性を示す成分を1%以上含むので区分1とした。

生殖細胞変異原性 :データなし

催奇形性 :データなし

発がん性 :データなし

生殖毒性 :データなし

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響 :データなし

吸引性呼吸器有害性 :データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生毒性

水生環境有害性(急性)

加算法で(急性1×M×100)+(急性2×10)+(急性3)＜25%で、分類できないとした。(49%は毒性未知の成分)

水生環境有害性(長期間)

加算法で長期間1+長期間2+長期間3+長期間4＜25%で、分類できないとした。(49%は毒性未知の成分)

水溶解度 :データなし

残留性・分解性 : 環境中で長期にわたり悪影響を及ぼすことがある。

生体蓄積性 :データなし

土壌中の移動性 :データなし

オゾン層破壊物質 :データなし

その他情報

その他の環境有害性情報 漏洩、廃棄などの際には環境に影響を与えるおそれがあるので取り扱いに注意する。
特に製品や洗浄水が地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県等の許可を受けた廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装

容器は清浄してリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行なう。空容器を廃棄する場合には、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号 :3267

クラス :8

容器等級 :III

正式品名 :腐食性物質

指針番号 :153

輸送の特定の安全対策及び条件

容器の破損、内容物の漏れがないことを確かめ、転倒、落下、破損の無いように積み込み、荷崩れを防止すること。

陸上輸送 :消防法、労働安全衛生法の輸送について定めるところに従う。

海上輸送 :船舶安全法に定めるところに従う。

航空輸送 :航空法に定めるところに従う。

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法

該当する化学品を意図的成分として含有せず、購入原料に不純物として含有するとの情報を受けていません。

労働安全衛生法

施行令18条 名称等を表示すべき危険物及び有害物

該当しない

施行令18条の2 名称等を通知すべき危険物及び有害物

酢酸

特定化学物質障害予防規則

該当しない



有機溶剤中毒予防規則
該当しない
化学物質管理促進(PRTR)法
第1種指定化学物質:
トリエチレンテトラミン
消防法
非危険物
大気汚染防止法
有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質(中央環境審議会第9次答申)
トリエチレンテトラミン
海洋汚染防止法
有害液体物質(混合物)

16. その他の情報

参考文献

JIS Z 7253 (2012年)
Supplier's data/information
化学物質総合情報提供システム (独立行政法人製品評価技術基盤機構NITE)

責任の限定について

本データシート記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、化学品の含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、記載内容は新しい知見又は法規制の変更等により改訂されることがあります。注意事項は、通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

以上